

ヒューリック通信は平川の分身がお客様のところへご挨拶に伺う、という気持ちでお届けいたします。当然でお会い無料です。

どうぞ一々通信

2022年5月19日發行

230号

「とっとと通信は
跋扈してとつとう。
いつも読んではおき
ありがとうござはず。

てスラスラと漢字で色紙に「愛妻」と書きます。ピースと
言えば「平和」アミ

愛

こんには！平川です。気持ちの良い
い五月晴れの空が広がるこの「こう、い
ががお過ごしてどうか。さて突然
ですが、過去を振り返ってみて、自
分の人生が大きく変わることになっ
た出来事ってござりますか？言レ
換えると、考え方や価値観が大
きく変わった瞬間です。「あの経
験があつたからこそ、大きく成長で
きた」今思えば、あの人との出会いが
あつたからこそ、進むべき道が決ま
りました。このお話を以前も書き
ました。このお話を以前も書き
ましたが、プラッキアップしました。
では今月もはりきっていきましょう。

卵たちが、観光客を相手に自分の作品（絵画など）を路上販売していました。中にはフオリティが高い作品もあり、レカレ値段はそんなに高くありません。1号サイズの絵画で二千円くらいでした。手に取って品定めをする観光客はりとも実際に買っていける人は少なく、どこもヒマなようでした。そんな中、20人ほどお客様が行列を作っていました。ひとくわ目立つていうところが、たのです。どんな素晴らしい作品を売っているのだろうかと興味を持ち、見に行つたら驚きました。何を売つてたと思ひますか？ それは「漢字」でした。店主は東洋人（ほい男ですが、日本人ではない）です。その男は漢字を色紙に書き、歐米人に売つていました。もちろん色紙を並べていました。されどお客様が「ラブ」と答えたとします。すると男は「OK！ ラブね」と言つ

と書きます。外国人に漢字は、神秘的なデザインに見えるようで、人気があります。その漢字を使って、世界に一つしかないオリジナルの作品を作るのですから、欲しくなるのも分ります。一人一枚ずつ買つて、いよいよ家族もいました。みなさん、喜んでお金を払つていました。

でさうに目を見張ったのは、男の格好です。白いあごひげ(つけひげ?)、を生やして、まるで絵に書いたような、仙人の姿。そして

周囲には、何本も掛け軸が飾ってあり、BGMもいかにもって感じの曲でした。児童が演出です。日本人の私が見ると明らかにうさん臭いのですが、そのオリエンタルな雰囲気は、歐米人の足を止めさせることに十分でした。普通に考えれば漢字を書いただけの色紙なんてもうれませんよね。売り方、売る相手、売る場所を変えるだけで、普通なら売れない商品が、飛ぶように売れてしまうのです。

ち、沢山の本を読み、2年後に起業しました。まさに人生のターニングポイントでした。あの店主は今でもあの場所で漢字を売っていります。うさん臭い東洋人の男に、人生を変えられたお話をしました。

興味深いお話を聞きました。ある大手銀行の融資担当者の話です。その方は今まで500社以上に融資をしてきましたが、自慢は今まで一件も回収不能になたことがないとのこと。そこで融資をするか否かを判断する基準の一つとして必ず社長の自宅に出向き、次の二つのポイントを見るそうです。

一、夫婦仲が良いかどうか。二、子供がぐれていなければどうか。三、玄関先が片付いているかどうか。なるほど、腹に落ちるお話をでした。

にしたのです。まるでコロニーバスの娘のような発想に、しばらくその場から動きませんでした。私はそれ